

# 目をこらして (10)



九月、虫取りに夢中な子どもたちがいた。

裏庭に行くと、いつもの虫取り仲間が集まって座り込んでいる。「どうしたの?」と聞くと「先生、もうちょっと早くくれば良かったのに。コオロギ逃げちゃったんだよ」と口をとがらせて言う。

プランターをどかしてやっと見つけたコオロギが、溝の中に入り込んでしまったのだという。溝には重いフタ(網状のもの)がしてあり手が届かない。子どもたちは残念そうに中に入ったコオロギを見つめていた。

「これはね、何とかなるのよ。重いから大人だけね」と言い私はフタを持ち上げた。

「え、はずせるの!」と驚きの子どもたち。これでコオロギに手が届く!

念願のコオロギを手中にし、私を見上げてまさしくんが言った。「先生、役に立つ!」

たぶん、これは最高の賛辞。

次の日もコオロギに夢中の子どもたち。コオロギも子どもたちの弱点を心得ていてすぐ溝に逃げ込む。





# 耳をすまして

さっそく私を呼びに来る。「よしきた」とフタを持ち上げる私。コオロギは上手に横、横と逃げていく。

「わかった。僕がフタ持つ。先生つかまえてよ」

私の持ち上げたフタを子どもが支え、その間にコオロギを素早くつかまえる。やったね、とうれしそうな声。

その数日後、「僕たち仕掛けするんだ」と言い、手にキュウリをにぎりしめ走っていく。

見に行くと、畑の真ん中にキュウリ入りのかごを埋め込んでいる。なかなかコオロギが見つからなくなったので考えたのだという。

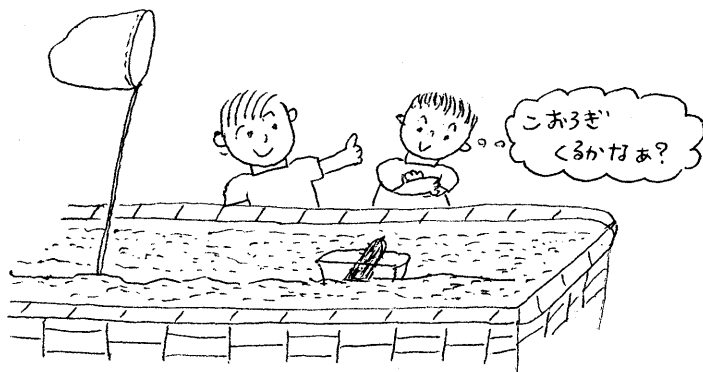
コオロギと子どもたちの攻防は、今日もまた繰り返されている。

\*

この子どもたちの生活が始まって五ヶ月。遠慮なくものが言える関係になって、毎日がとても楽しい。

役に立ってるなあ、と実感しつつ今日も私はフタを持ち上げている。

絵と文 宮里暁美 (目黒区立ふどう幼稚園)



しかけのきゅうり